

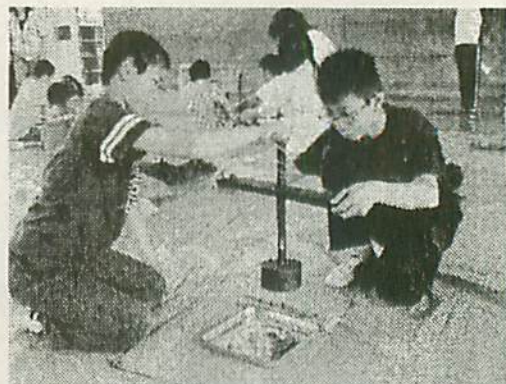
「子ども一人一人を理解する」研修会

～Q-Uの分析と活用に関する研修～

進行：教 務

次 第

- 1 開会のあいさつ 教 頭
- 2 校長あいさつ 校 長
- 3 研 修
 - ・講 話
講 師
山形県学校スクールカウンセラー
小 泉 智 巳 先生
 - ・質疑応答
- 4 お礼の言葉 校 長
- 5 閉会のあいさつ 教 頭



Q-U を使って子ども一人ひとりを理解する

山形県スクールカウンセラー
小泉智巳

1. はじめに

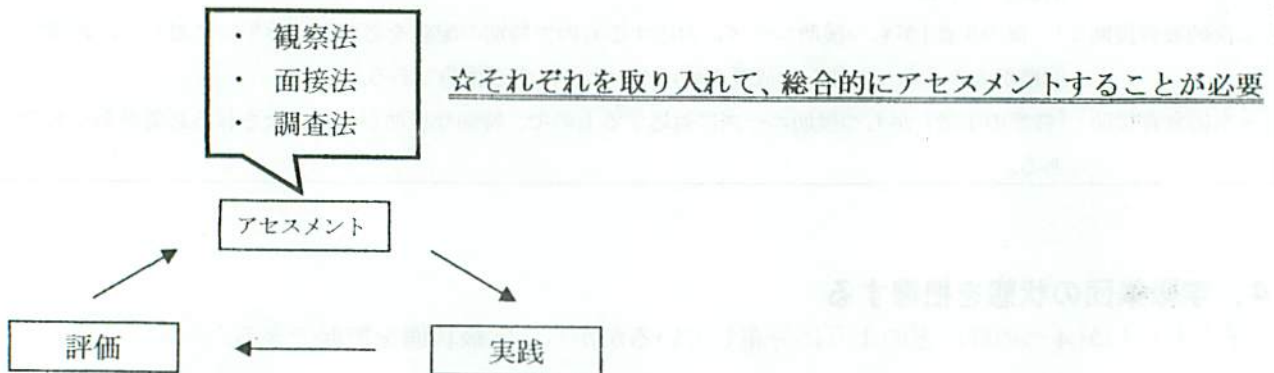
<河村茂雄 2007 データが語る①学校の課題 図書文化社 より>

…そこで、不登校の兆候やいじめの被害を早期発見できるような、短時間で実施・分析できる心理教育アセスメントを開発しました。

…その際に考慮したのは、子どもたち一人一人の実態を把握するとともに、子どもたちが生活する学級集団の状態を、同時に把握できるものにしようということです。



○ 「人間は人の間で人になる」



2. Q-U (Questionnaire-Utilities) とは

○ 『楽しい学級生活を送るためのアンケート Q-U』 (河村茂雄著、図書文化) として市販されており、①「いごちのよいクラスにするためのアンケート」と②「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」と③自由記述のアンケートから構成されている。

「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」

児童生徒の学校生活における意欲や充実感をいくつかの領域から測定する

- ・友だちとの関係
- ・学習意欲
- ・学級の雰囲気

「いごちのよいクラスにするためのアンケート」

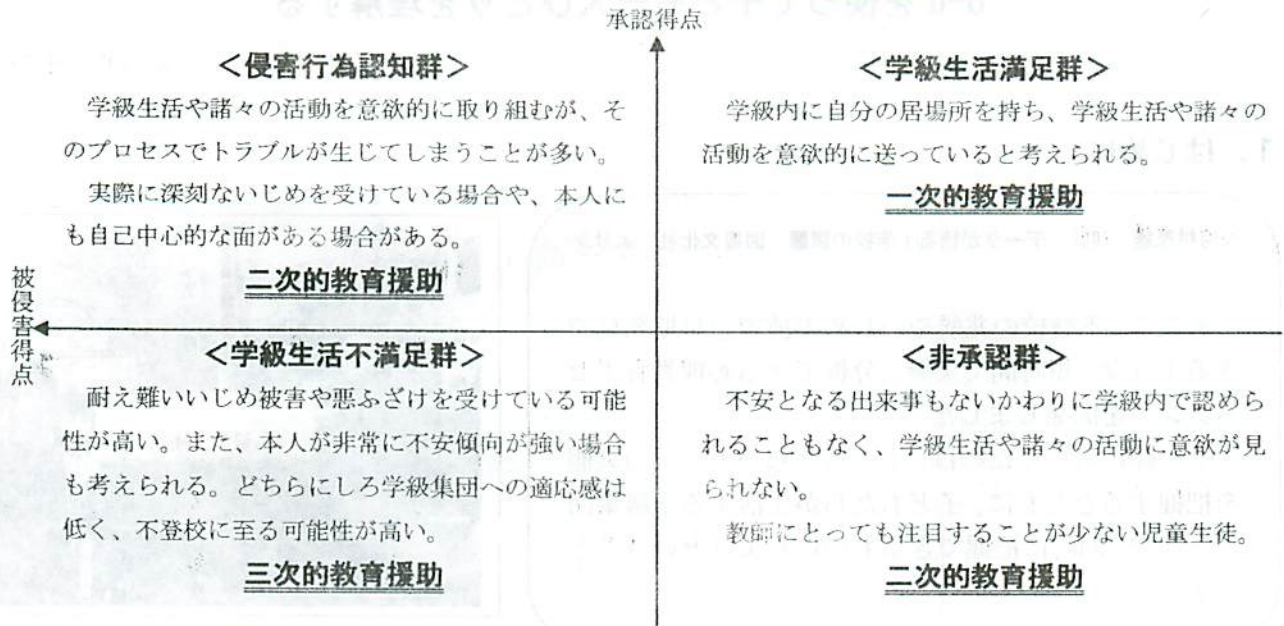
児童生徒が所属する学級集団をいごちがよいと感じるのは…

- ①トラブルやいじめなどの不安がなくリラックスできている
 - － 被害者得点
- ②自分が級友から受け入れられ、考え方や感情が大切にされていると感じられる
 - － 承認得点

という2つが満たされたときである。

3. Q-U から得られる基本的視点

ex.) 児童生徒個人の個人内評価を把握する (4つの群の中から学級への満足感を把握できる)



学校心理学の心理教育的援助サービス…

一次的教育援助：「すべての生徒」がもつ援助ニーズに対応するもので、多くの生徒が遭遇する課題を予測して事前に援助する予防的援助と、生徒が学校生活を送る上で必要とする適応能力の開発を援助する発達促進的援助である。

二次的教育援助：「一部の生徒」がもつ援助ニーズに対応するもので特別の配慮を必要とする生徒に対して、該当する問題が大きくなって彼らの成長を妨げないようにする援助である。

三次的教育援助：「特定の生徒」がもつ援助ニーズに対応するもので、特別な援助が個別になされる必要があるものである。

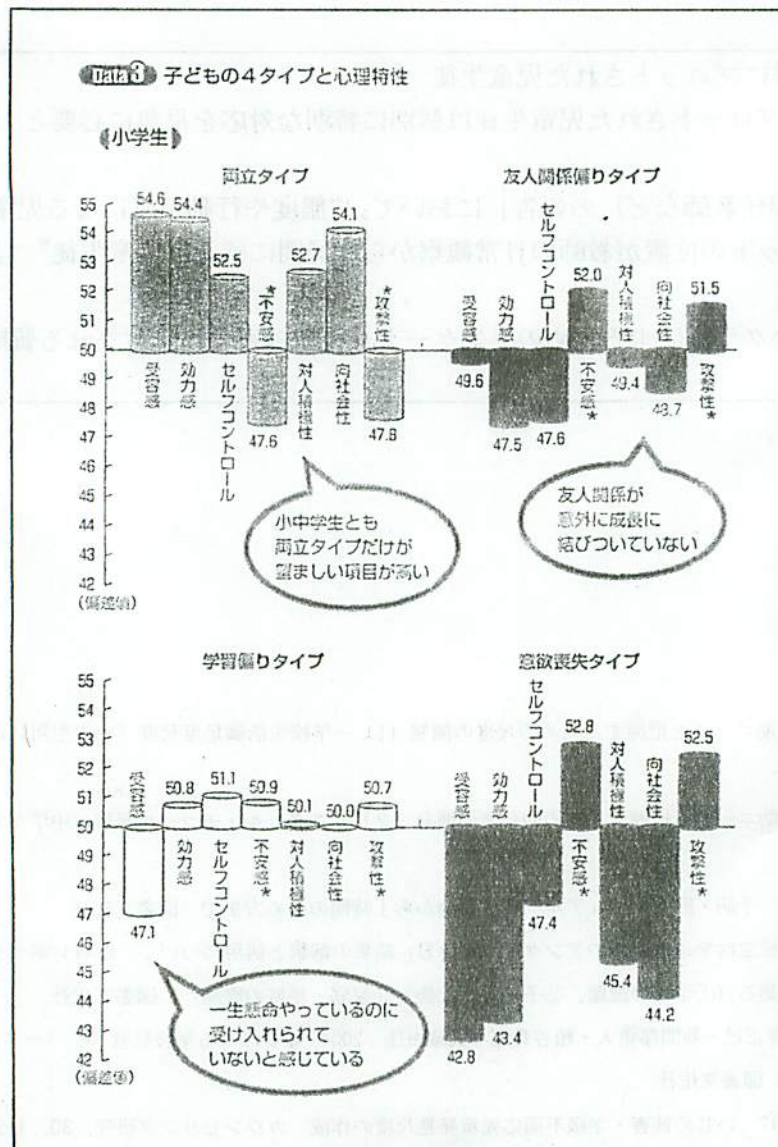
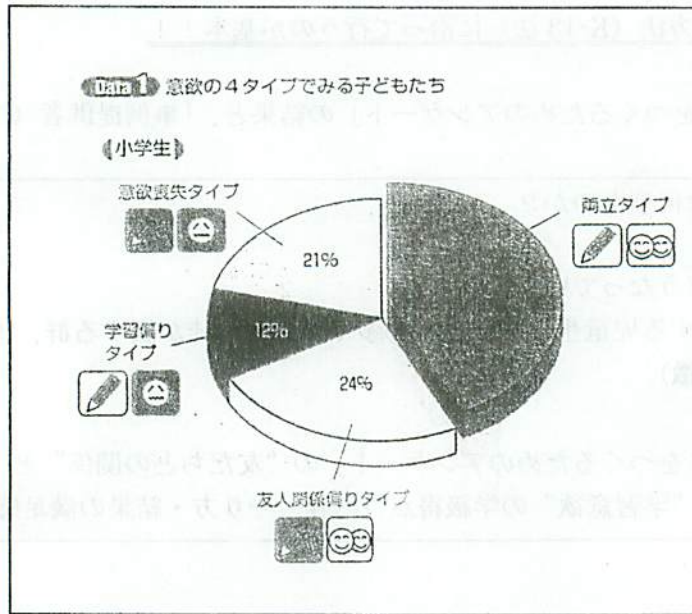
4. 学級集団の状態を把握する

子どもたちが4つの群にどのように分布しているかから、学級状態を把握できる。

被侵害得点 ⇒ 対人関係、集団生活の**ルール** (理解され定着している)

承認得点 ⇒ お互いにかまえない本音の感情交流**リレーション**

5. 対人関係×学習意欲の4つのタイプ



6. Q-U 結果の読み取りについて (一例)

(1). 学級集団

Q-Uによる事例検討の方法 (K-13法) に沿って行うのが基本!!

「いごちのよいクラスをつくるためのアンケート」の結果と、「事例提供者 (担任教師など) の報告」

- 学級集団のプロットは何型なのか?
- 学級集団の雰囲気はどうなっているのか?
(①学級生活満足群に属する児童生徒の割合、②多くの児童生徒が属する群、①と②にプロットされた児童生徒に共通する特徴)
- 「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の“友だちとの関係”と“学級との関係”の学級得点の関係、そして“学習意欲”の学級得点 (内容・やり方・結果の満足感)

(2) 児童生徒個人

- 学級生活不満足群にプロットされた児童生徒
(特に、要支援群にプロットされた児童生徒は個別に特別な対応を早急に必要としている場合が多い)
- 「事例提供者 (担任教師など) の報告」において、“態度や行動が気になる児童生徒”は注意が必要となるが、“プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる児童生徒”も注意が必要
- 「いごちのよいクラスにするためのアンケート」の被侵害得点に含まれる質問項目

<参考文献>

- 河村茂雄 1999 生徒の援助ニーズを把握するための尺度の開発 (1) - 学校生活満足度尺度 (中学生用) の作成 - カウンセリング研究, 32, 274-282.
- 河村茂雄 1999 生徒の援助ニーズを把握するための尺度の開発 (2) - スクール・モラル尺度 (中学生用) の作成 - カウンセリング研究, 32, 283-291.
- 河村茂雄 2000 学級崩壊 予防・回復マニュアル-全体計画から1時間の進め方まで 図書文化社
- 河村茂雄 2004 楽しい学校生活を送るためのアンケート「Q-U」結果の解釈と活用について 応研レポート, 70.
- 河村茂雄 2007 データが語る (①学校の課題、②子どもの実態、③家庭・地域の課題) 図書文化社.
- 河村茂雄・藤村一夫・小野寺正己・菊間澤勇人・粕谷貴志・武蔵由佳 2004 Q-Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド (小学校編・中学校編・高等学校編) 図書文化社.
- 河村茂雄・田上不二夫 1997 いじめ被害・学級不適応児童発見尺度の作成 カウンセリング研究, 30, 112-120.

資料 1

「事例提供者（担任教師など）の報告」の書式

◇ 学級集団の背景： ・学校の特徴… ・学級編成の状況…	学校 学年 名（男子 名、女子 名）
◇ 問題と感じていること	
◇ 学級の公的なリーダーの児童・生徒	
◇ 学級で影響力の大きい／陰で仕切るような児童・生徒	
◇ 態度や行動が気になる児童・生徒	
◇ プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる児童・生徒	
◇ 学級内の小グループを形成する児童・生徒	
◇ 4群にプロットされた児童・生徒に共通する特徴 ・満足群… ・非承認群… ・侵害行為認知群… ・不満足群…	
◇ 担任教師の方針 ・学級経営… ・授業の展開…	